

新緑が目眩しい心地よい季節となりました。
 社会には新入社員の姿も見えますが、厚生省では
 再来年から医師の国家試験を大きく見直すことに
 したそうです。試験問題をおよそ 倍に増やし、
 患者との会話能力を重視する。テストの点が良い
 医師より、患者の心が理解できる医師を増やすと
 いうことです。
 患者の気持ちが分かるのは患者自身。いつの日か
 今、病気と闘う子供達が医師の立場になれたなら
 どんなに良いでしょう。

< 第 4 6 回 ほほえみの会 >

新会員 2 人と医師を含む 9 人が参加しました。

最近入院した 3 歳の女の子は前の病院で骨髄検査の大きな注射を
 何本もさせられ、病院の先生に恐怖感を植え付けられた。
 白衣の先生を見ると怖がっていた子も「こども病院」に移って
 10 日余り、ようやく慣れてきたということです。
 先生によりますと骨髄の中に悪い細胞が多いと注射の針が刺さら
 ない、骨髄の採取が出来にくいということですが、前の病院での
 様子がわかっていたら痛くないように考慮をしてくれたとのこと
 です。
 また病気については、入院の時に先生が骨の絵を見せて「骨の中
 にバイキンマンがいる」と説明し本人も納得したようです。

子供が病気をし、入院したことは不幸かもしれない。でも病院の中
 で子供は成長ししっかりしてくる。他人への思いやりも覚える。
 そして親も多くのことを教えられる。そんな子供の成長親の成長
 体験談も多く出ました。

子供の状態が悪く予断の許さない状態の続くご両親は病院に
 泊まり込みでいます。ご主人は会社に「介護休暇」を申請し、
 3 ヶ月間毎日午後 2 時から休みを貰うことにしたそうです。
 子供の心配はもちろんですが、緊張した状態が長く続くと看護す
 るお母さんの体調も心配です。
 ご主人はそんな奥さんを思いやり、お風呂に入ったり買い物に行
 ったりという気分転換の時間をもたせてやりたいということです。

「介護休暇」はこの 4 月から労基法の改正で企業に義務づけられ
 ました。どこの会社でも休みを取りにくい事情はありましようが、
 法律で守られた権利です。ましてや子供にとっての父親、母親は
 一人。周りも理解してくれることでしょう。

兄弟への病気の知らせ方も話題になりました。

- ・映画「金色のクジラ」を見た後、小 2 の姉に話した。
- ・特に説明はしなかったが面会に来たときにガラス越しに見せた。
子供なりに感じているだろう。
- ・大人は先入観があるが子供は素直に聞けるだろう。
- ・子供に言うと近所などで周りの人にいうのが困る。喋るなとも
言えない。
- ・外泊の前日に姉に髪の毛がなくなっていることを話した。涙を
流していたが当日本人が来ると頭をなでて一緒に遊んでいた。

6 月の総会の時に患者兄弟にも参加してもらい、兄弟姉妹の病気
 について先生から説明をしてもらう予定です。子供達にはゲーム
 も用意する予定です。先月アンケートのはがきを同封しましたの
 でまだの方はご返送下さい。

次回は 5 月 9 日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一